

バイオビジネス経営学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 門間敏幸

◆学習・教育目標

バイオビジネス経営学の基礎となる理論を自ら考えて修得するとともに、その現代的意義や限界、今後の理論開発の方向性について学ぶ。特に、バイオビジネス経営学特論Ⅱでは、①バイオビジネスと地球環境問題、②バイオビジネスと情報、③技術経営(MOT)、④バイオビジネスの組織管理、組織間関係、⑤行動科学的経営管理論、⑥コンティンジェンシー理論、について大学院生自らが理論と研究課題を探索できるように、担当教員との論議を中心に講義を展開する。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

バイオビジネス

地球環境問題

経営情報

MOT

組織論

組織間関係論

行動科学的経営管理論

コンティンジェンシー理論

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	バイオビジネスと環境問題、環境保全型農業、環境を考える倫理的な基礎(第1～第3週)	・バイオビジネスにおける地球環境問題を理解するとともに、環境保全型農業の経営的意義、そして環境問題を考える倫理的な基礎を修得する。	本授業のねらいは、バイオビジネス経営学の理論を大学院生自らが発見して修得出来るように、教員と学生、学生相互の論議を重視する。特に準備すべき事項はないが、常に自らの考え方を整理して発表できるようにすることが大切である。
2	バイオビジネスと情報及び情報ネットワーク(第4～5週)	・バイオビジネスにおける情報の種類・機能と戦略的活用の理論を修得するとともに、情報活用事例の分析を行いその可能性を修得する。	
3	MOT(第6～7週)	・バイオビジネスにおけるMOT的な発想の重要性と新たな経営学の意義と問題点を修得。	
4	バイオビジネスの組織管理、組織間関係論(第8～10週)	・バーナード、サイモンの近代組織論、ネットワーク形経営を理解するための組織間関係論、フランチャイズ型農業経営理論を修得する。	
5	行動科学的経営管理論(第11～13週)	・経営管理論の体系を修得するとともに、行動科学的な視点に立脚した経営管理論について修得する。	
6	コンティンジェンシー理論(第14～15週)	・環境変化とバイオビジネス経営の変化を統一的に理解するための理論を修得する。	

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

バイオビジネス経営学総論への招待(バイオビジネス4収蔵)/門間敏幸/家の光協会(2005)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

ドラッカー/マネジメント上・下/ダイヤモンド社(1997)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

授業への積極的な参加度とレポートで評価する。

◆その他受講上の注意事項

教員から教わるのではなくて、自ら理論を創造するという態度で授業に参加して欲しい。